



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：リクード・イスラエルベイトヌが統一会派を解消

7月18日、イスラエルのネタニヤフ首相は、地上部隊のガザ投入を決定したが、今回の一連のガザ対応策については冷静で慎重な姿勢を維持している。こうしたネタニヤフ首相の政策を評価する向きもあるが、政権内の右派・極右政治家らが反発を強めている。

7月7日、リバーマン外相（イスラエルベイトヌ党首）は、ネタニヤフ首相との間に、ガザ対応策で根本的な意見の違いがあるとして、リクードとの統一会派（2012年10月12日結成）を解消すると発表した。7月9日、イスラエル国会（議席数120）での承認を受けて、同会派は、リクード（20議席）、イスラエルベイトヌ（11議席）に分かれた。リクードは、第1政党であるが、イスラエルベイトヌは第5党になった。イスラエルベイトヌは連立与党（68議席）に残留した。

リバーマン外相は、統一会派解消後、ネタニヤフ首相のガザ政策に対する非難を強めた。7月15日、治安閣議がエジプトの停戦案を受諾する決定をしたことをリバーマン外相は強く非難している。また同外相は、ガザを再度占領する、あるいはハマースに対する攻撃が不十分なまま停戦に合意すると近い将来、再びガザで同じことが起きるなどと発言している。またリクード内の右派もネタニヤフ首相の対応に反発を強めている。7月15日、ネタニヤフ首相は、自分の党リクードの議員で副国防相のダニー・ダノンが公の場で政府のガザ政策を非難したとして、同副相を解任した。

評価

リクードは、議会内での最大政党であるが、第2党のイエーシュ・アティドと1議席の差しかない。近くリクード議員が大使として転出するので、リクードは19議席になるとの予測もある。そうなると与党は10議席数台の中政党5党で構成されることになる。今はガザ対応があるため連立政権はまとまっている。しかし、ハマースとの戦闘が一段落した後、連立与党内の対立が表面化する可能性がある。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799